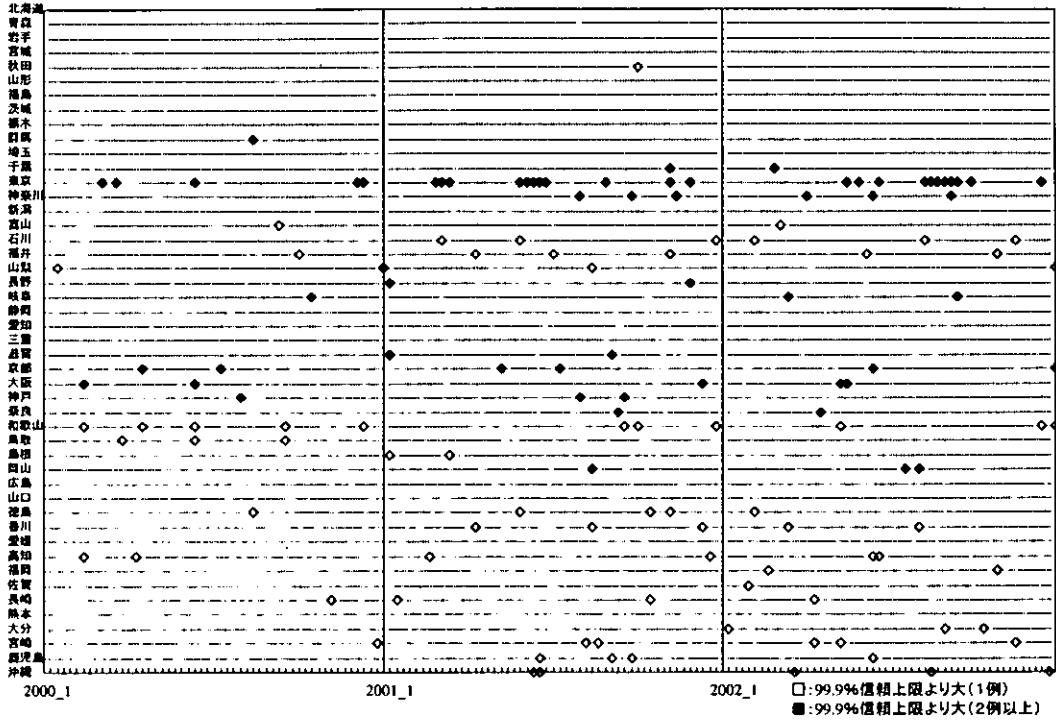
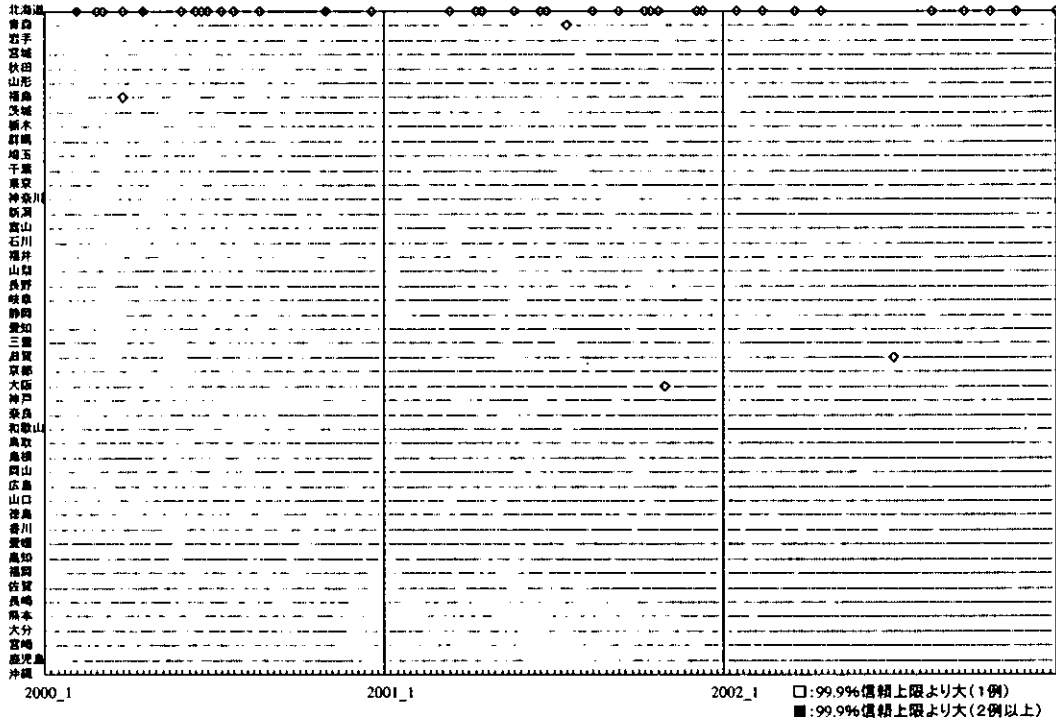


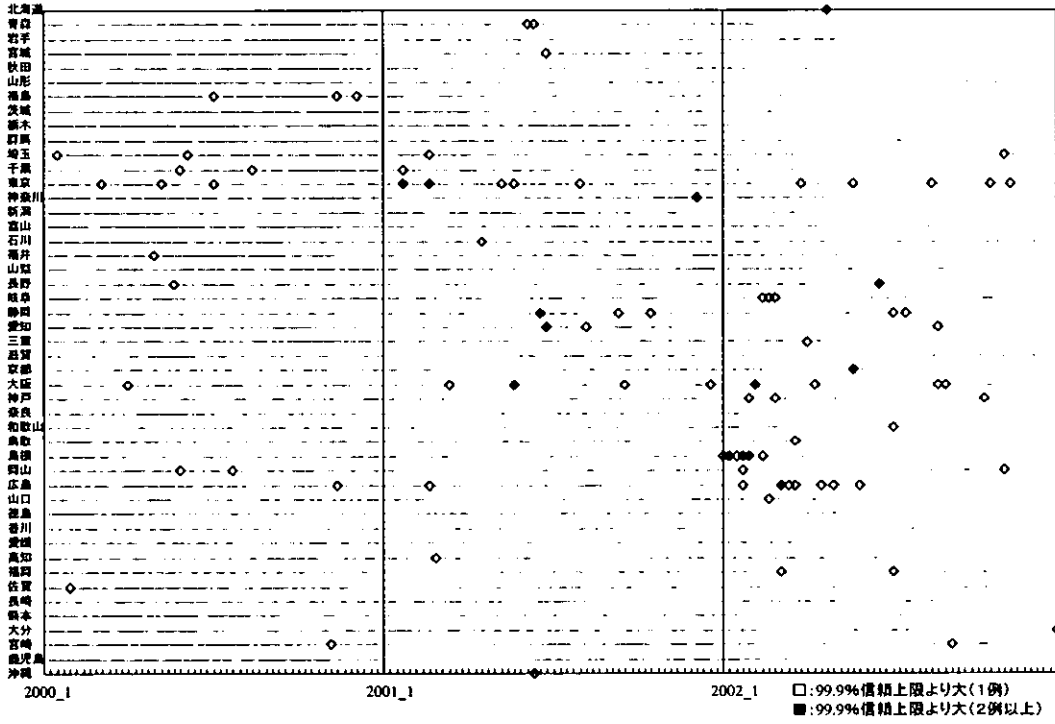
図V-3-1 都道府県と週別、過剰報告状況（アメーバ赤痢）



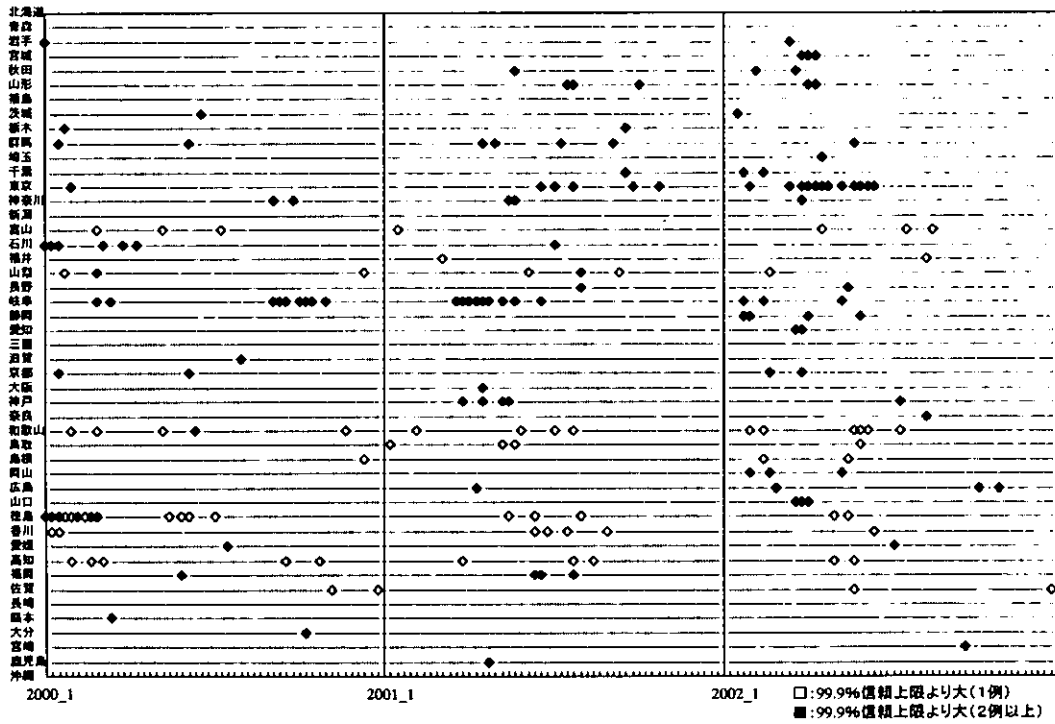
図V-3-2 都道府県と週別、過剰報告状況（エキノкокクス症）



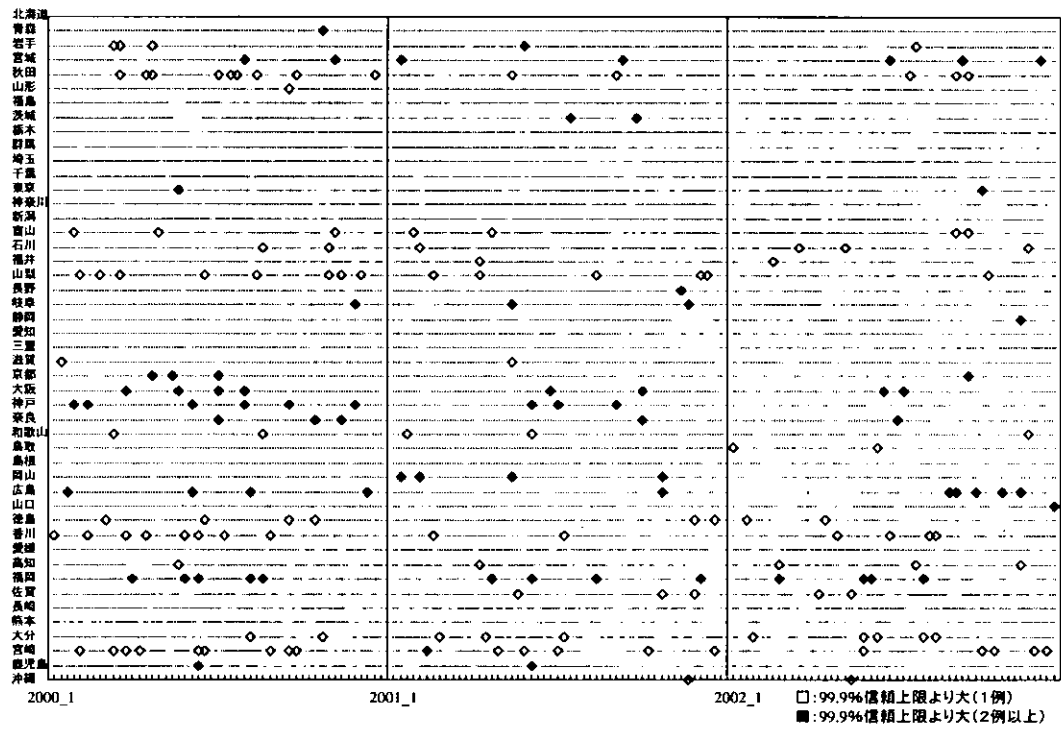
図V-3-3 都道府県と週別、過剰報告状況（オウム病）



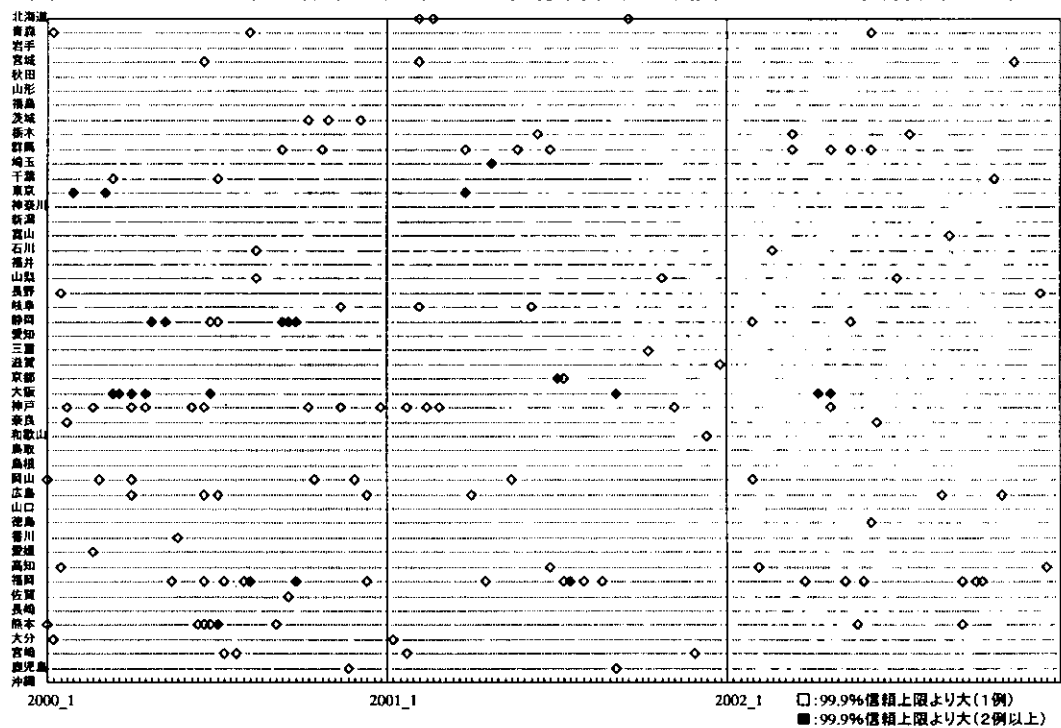
図V-3-4 都道府県と週別、過剰報告状況（急性ウイルス性肝炎A型）



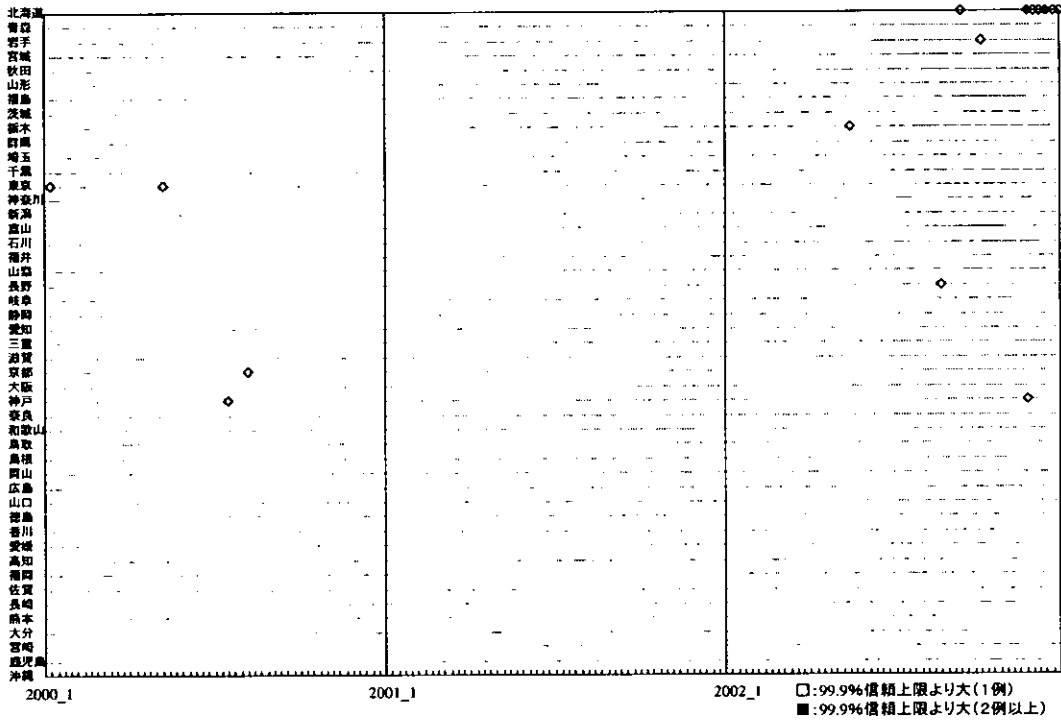
図V-3-5 都道府県と週別、過剰報告状況（急性ウイルス性肝炎B型）



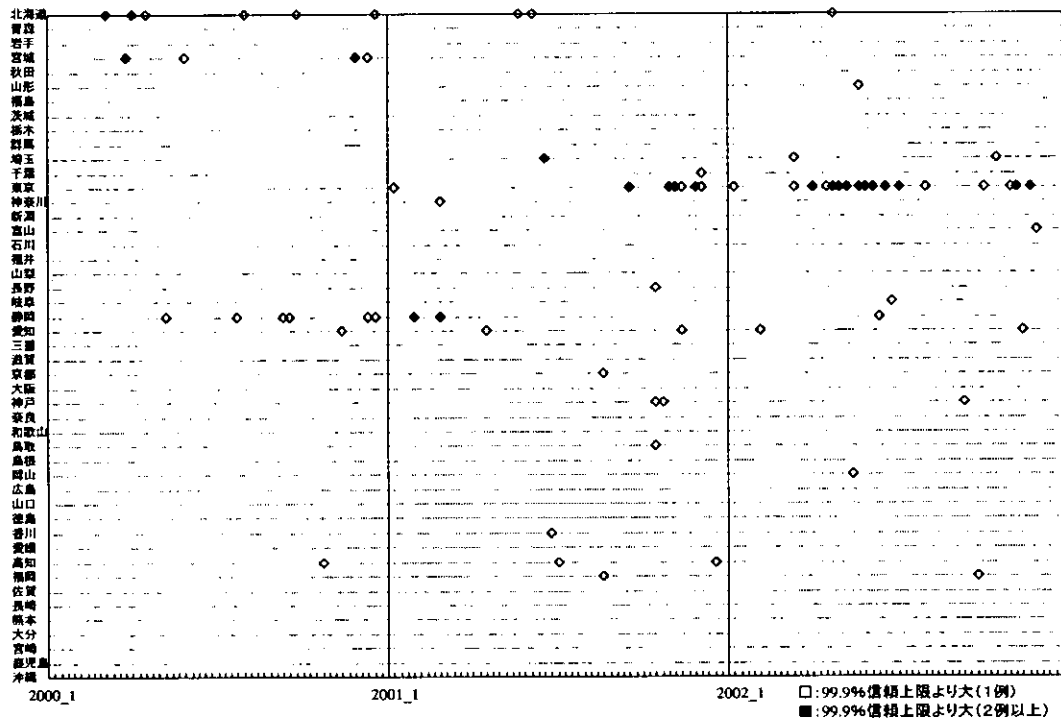
図V-3-6 都道府県と週別、過剰報告状況（急性ウイルス性肝炎C型）



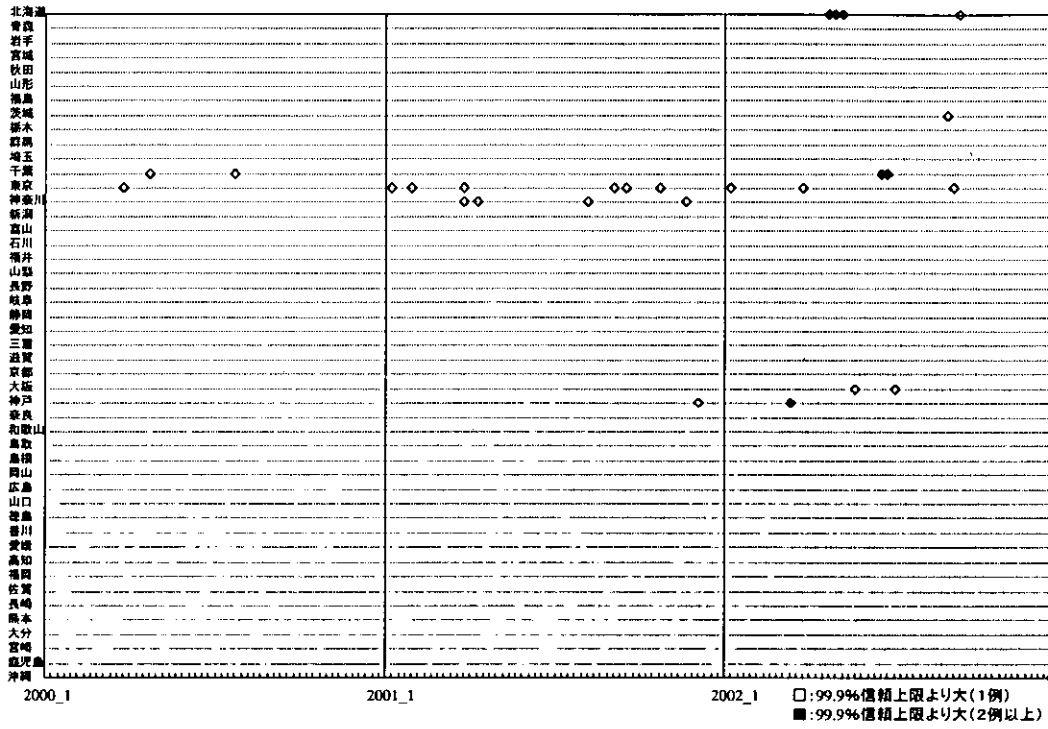
図V-3-7 都道府県と週別、過剰報告状況（急性ウイルス性肝炎E型）



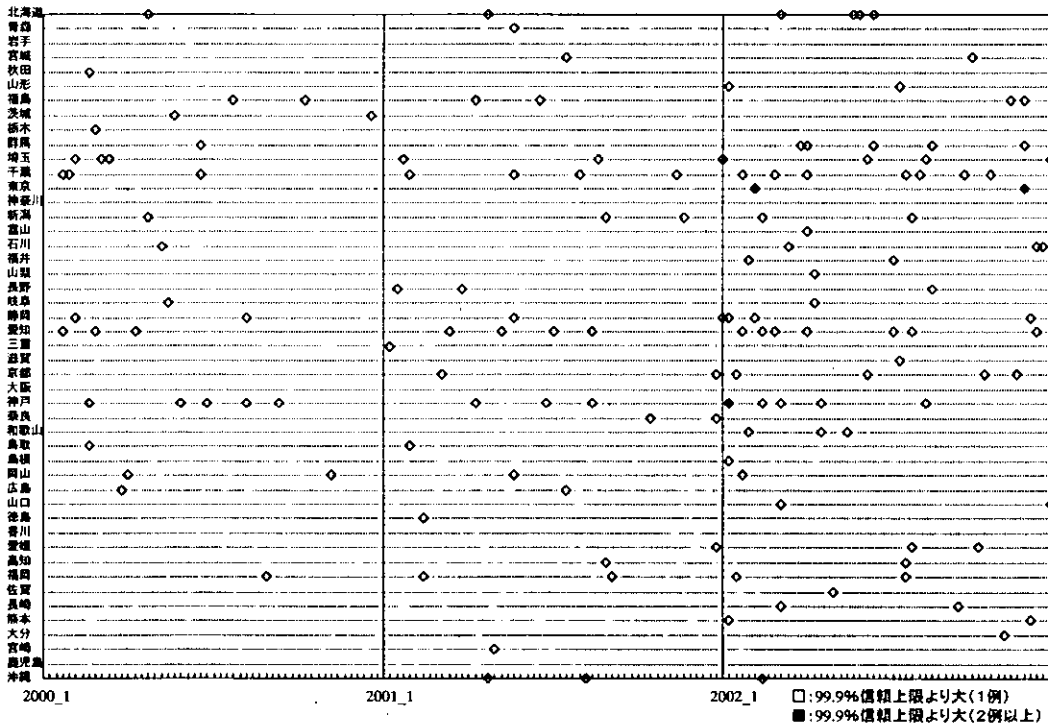
図V-3-8 都道府県と週別、過剰報告状況（Q熱）



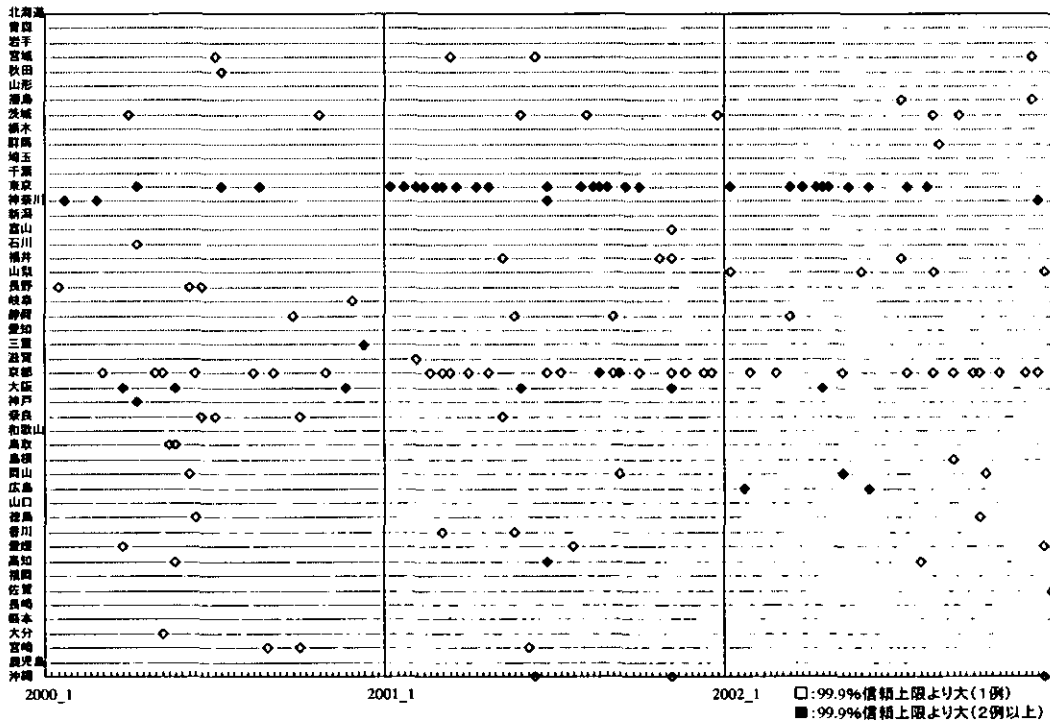
図V-3-9 都道府県と週別、過剰報告状況（クリプトスポリジウム症）



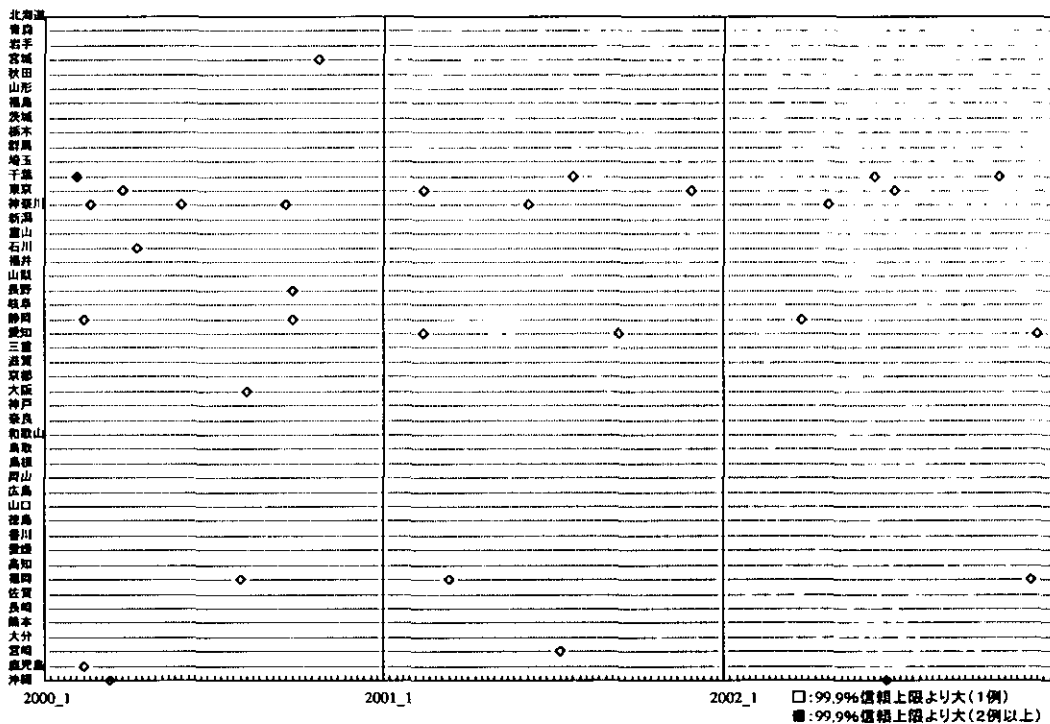
図V-3-10 都道府県と週別、過剰報告状況（劇症型溶血性レンサ球菌感染症）



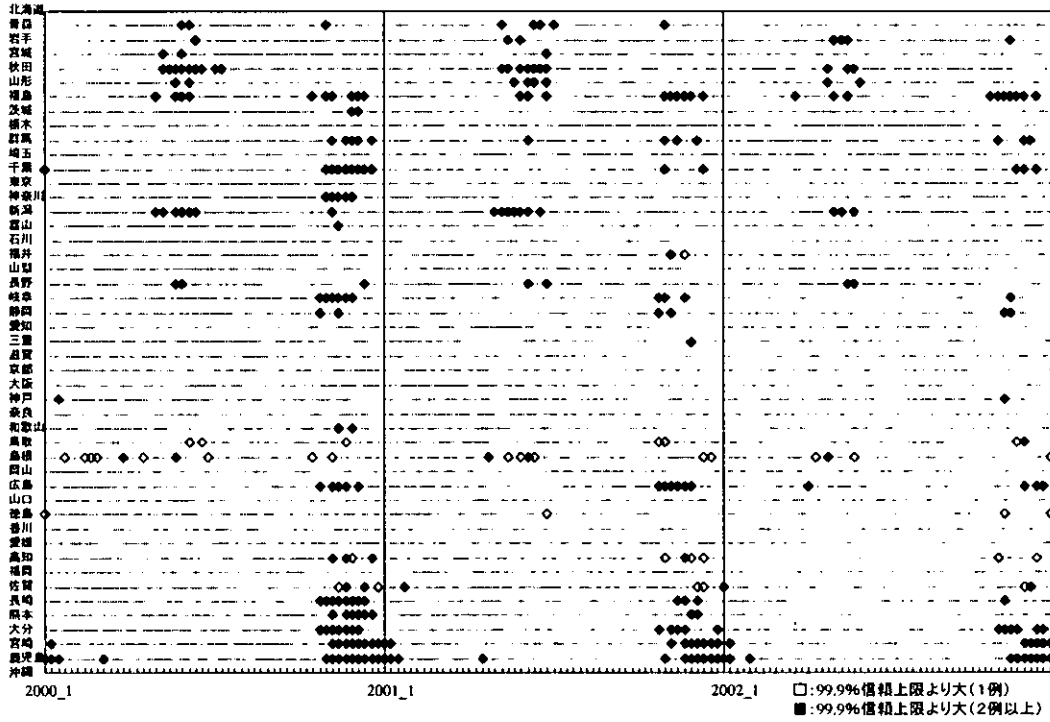
図V-3-11 都道府県と週別、過剰報告状況（ジアルジア症）



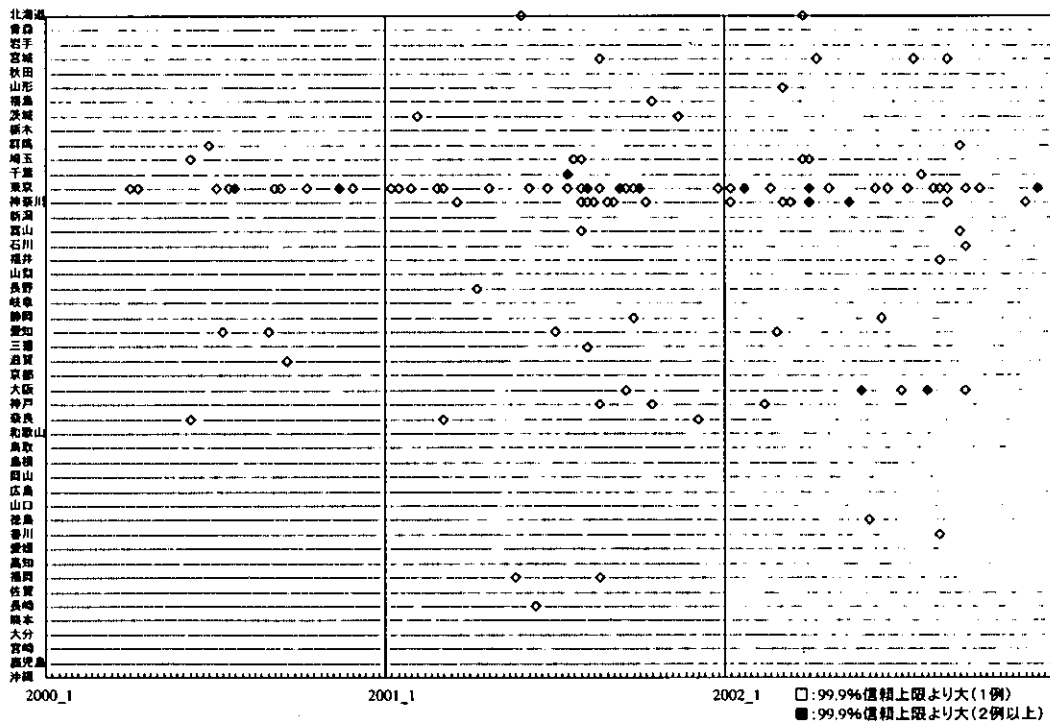
図V-3-12 都道府県と週別、過剰報告状況（髄膜炎菌性髄膜炎）



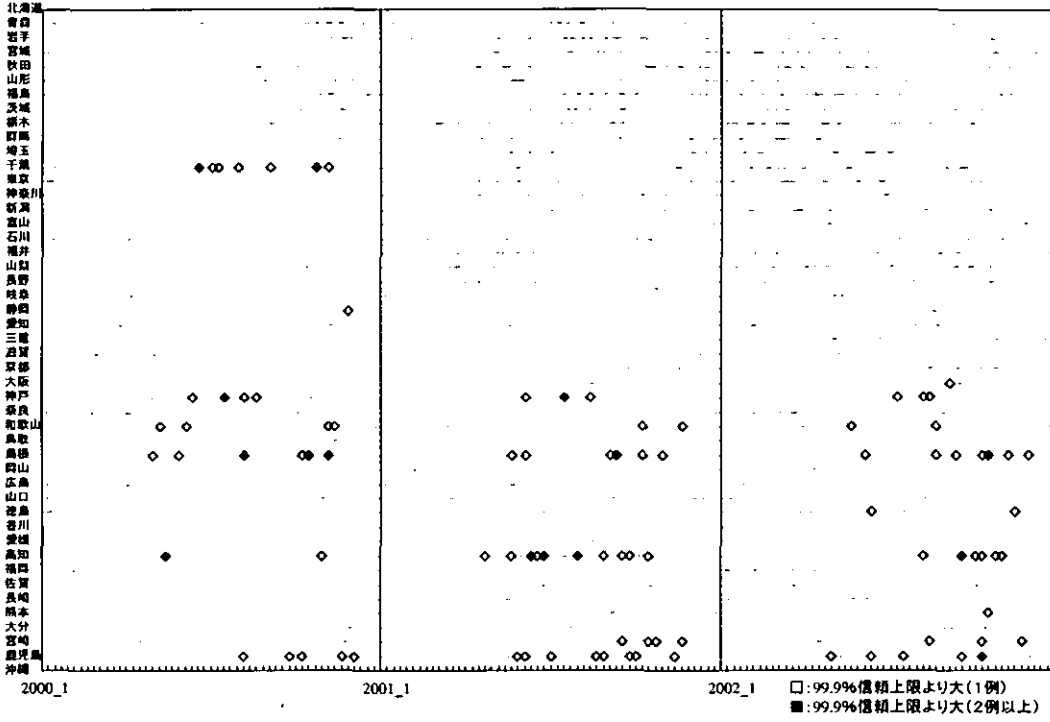
図V-3-13 都道府県と週別、過剰報告状況（ツツガムシ病）



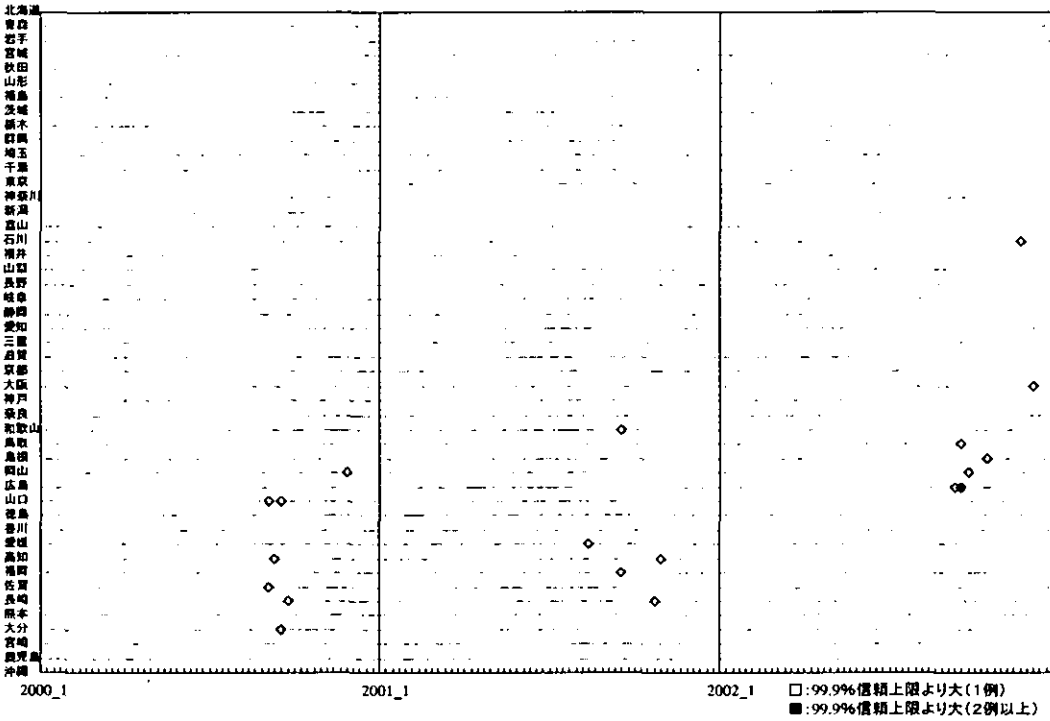
図V-3-14 都道府県と週別、過剰報告状況（デング熱）



図V-3-15 都道府県と週別、過剰報告状況（日本紅斑熱）

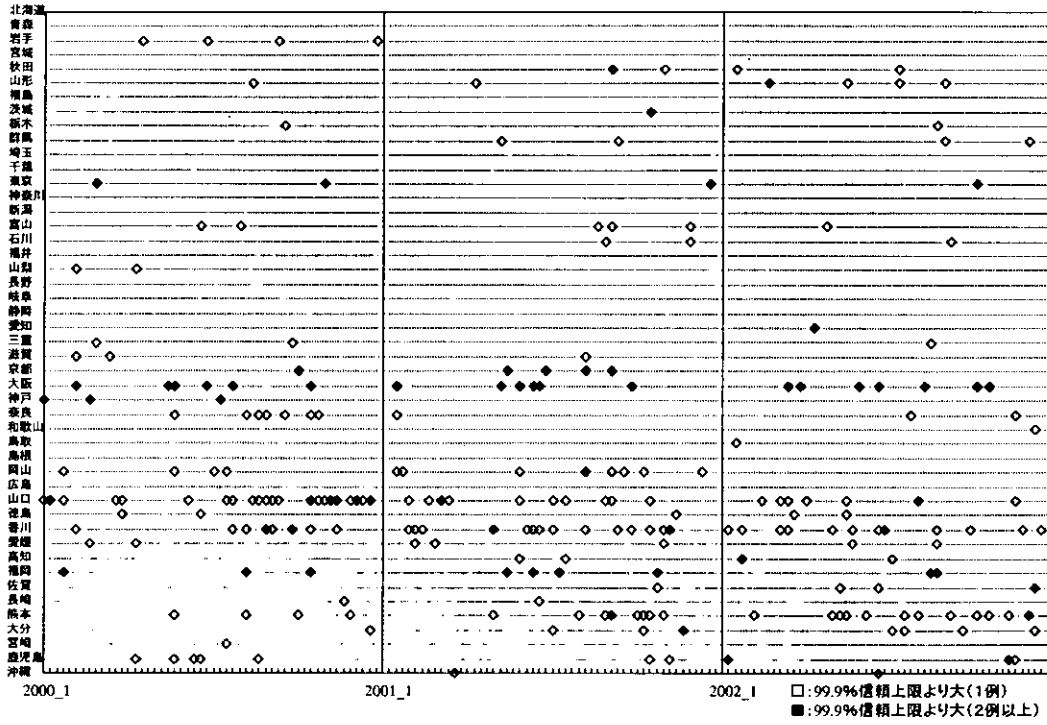


図V-3-16 都道府県と週別、過剰報告状況（日本脳炎）

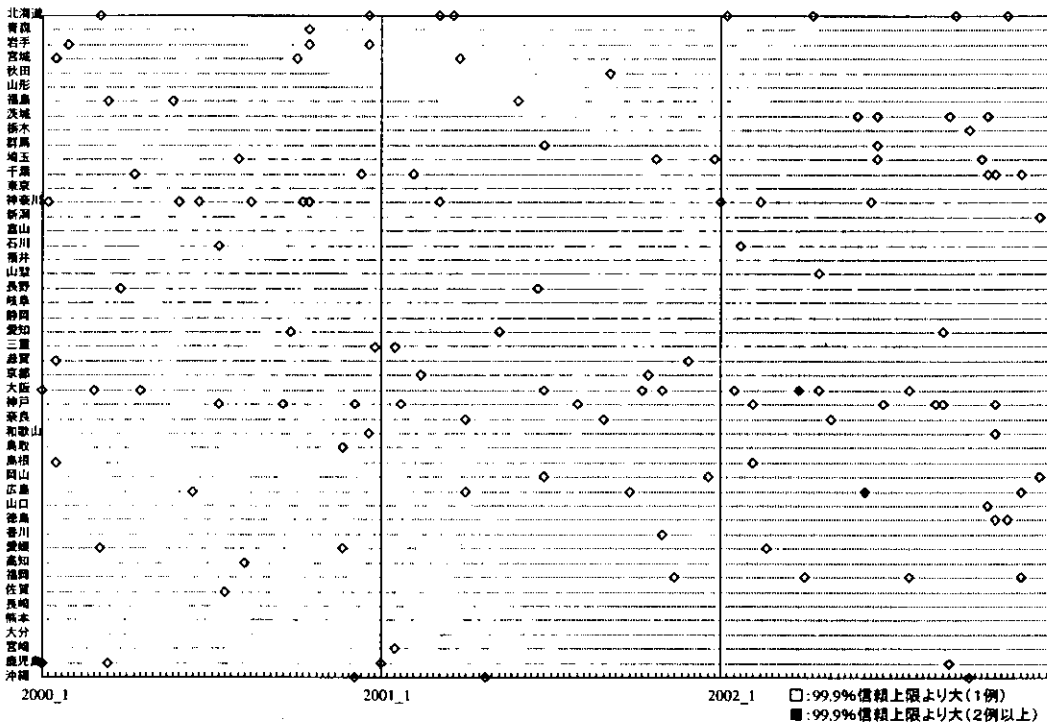




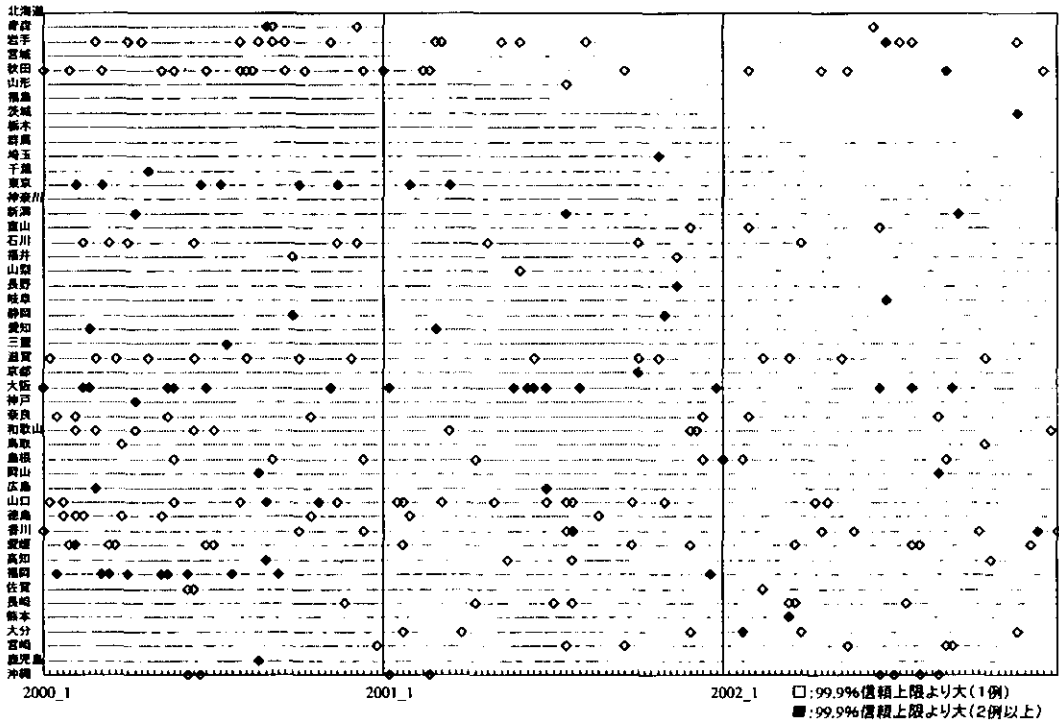
図V-3-17 都道府県と週別、過剰報告状況（早期顕症梅毒）



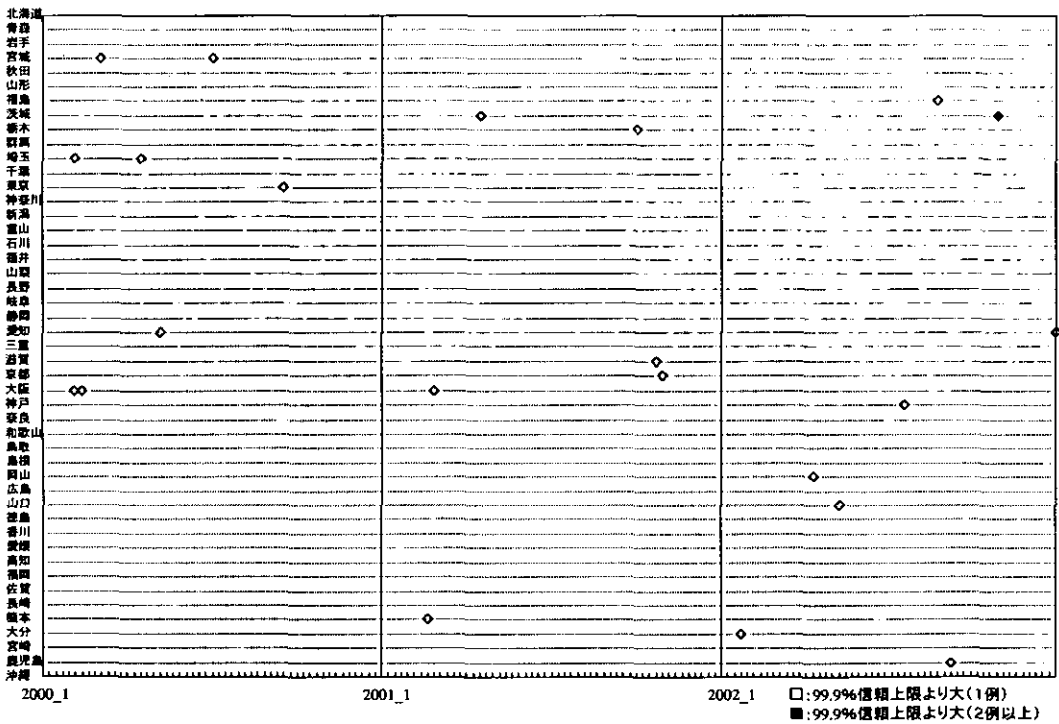
図V-3-18 都道府県と週別、過剰報告状況（晩期顕症梅毒）



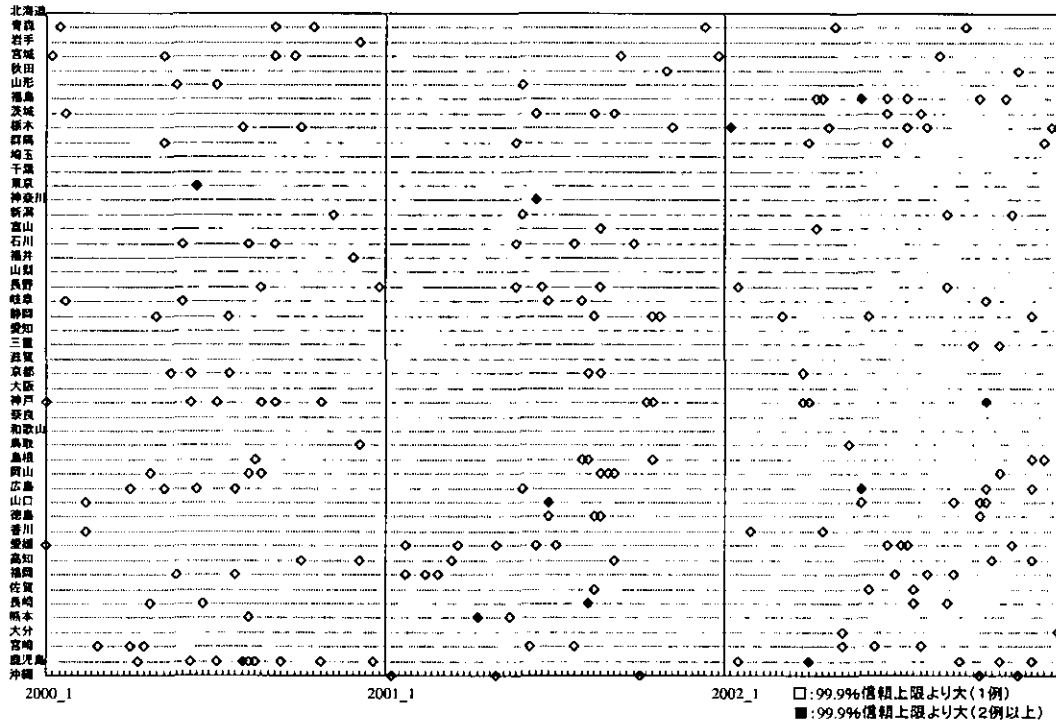
図V-3-19 都道府県と週別、過剰報告状況（無症状梅毒）



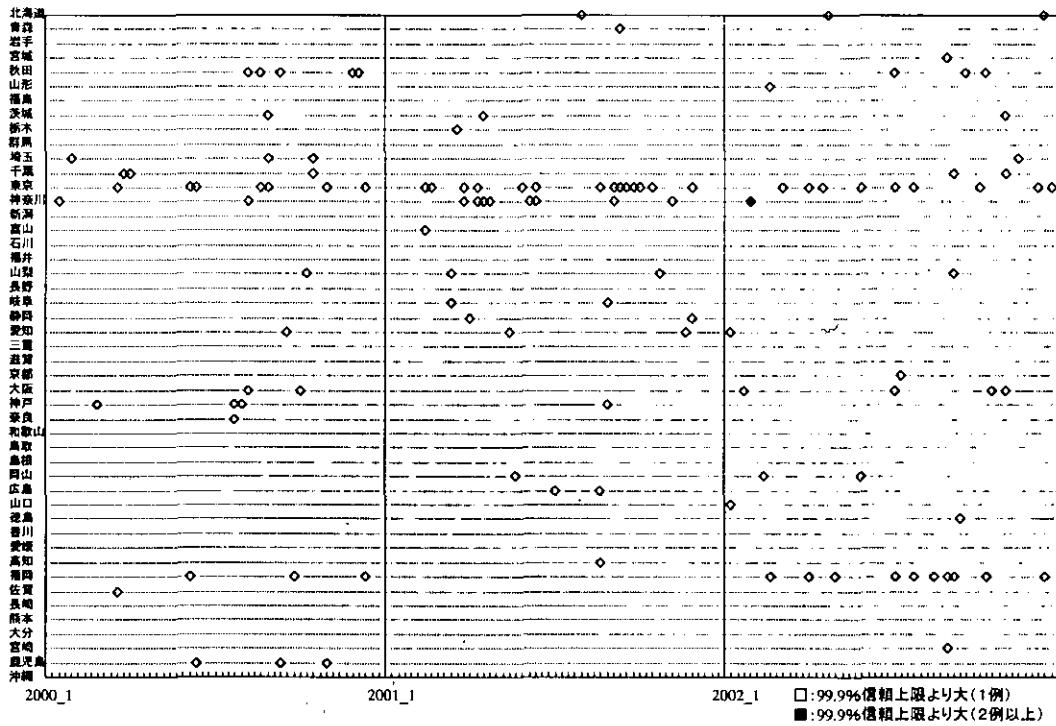
図V-3-20 都道府県と週別、過剰報告状況（先天梅毒）



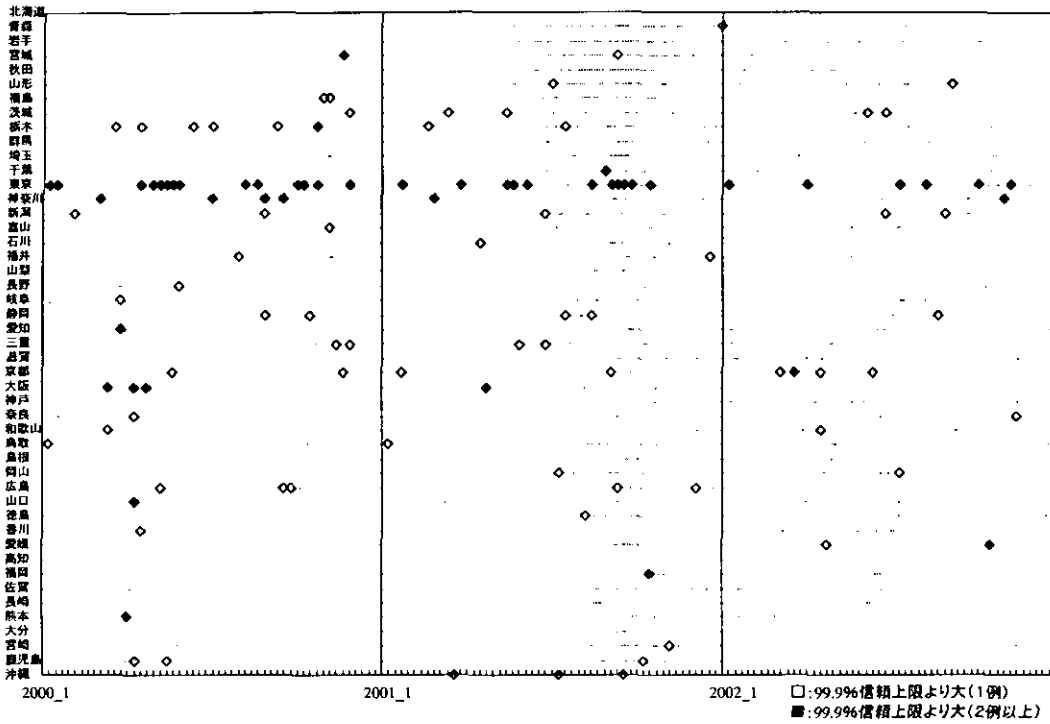
図V-3-21 都道府県と週別、過剰報告状況（破傷風）



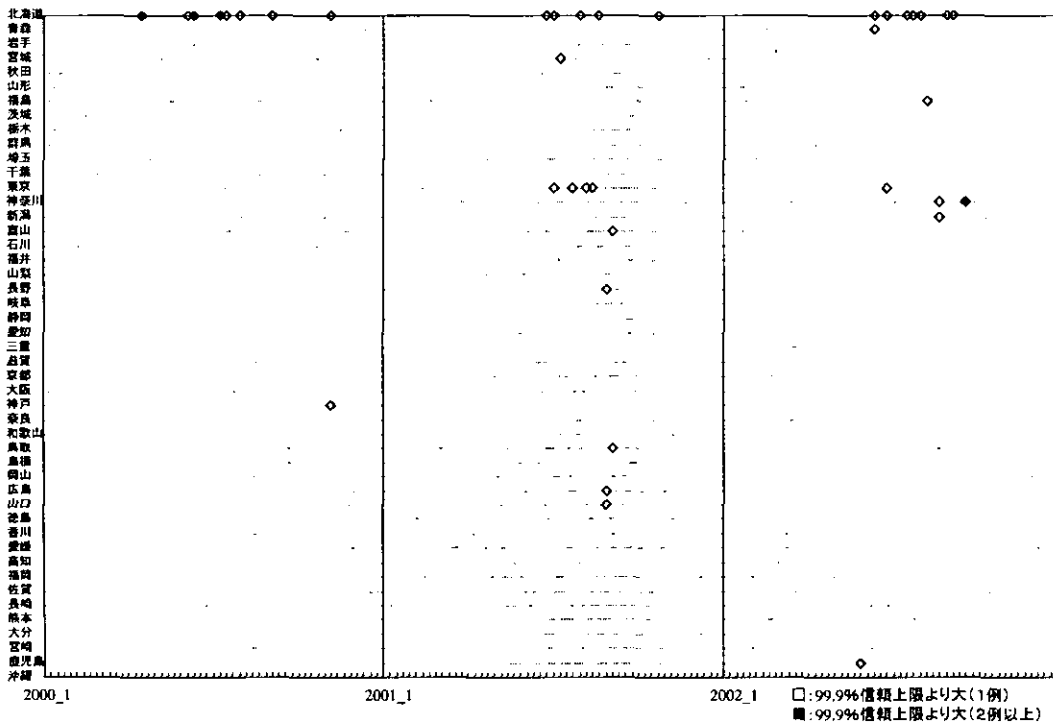
図V-3-22 都道府県と週別、過剰報告状況（バンコマイシン耐性腸球菌感染症）



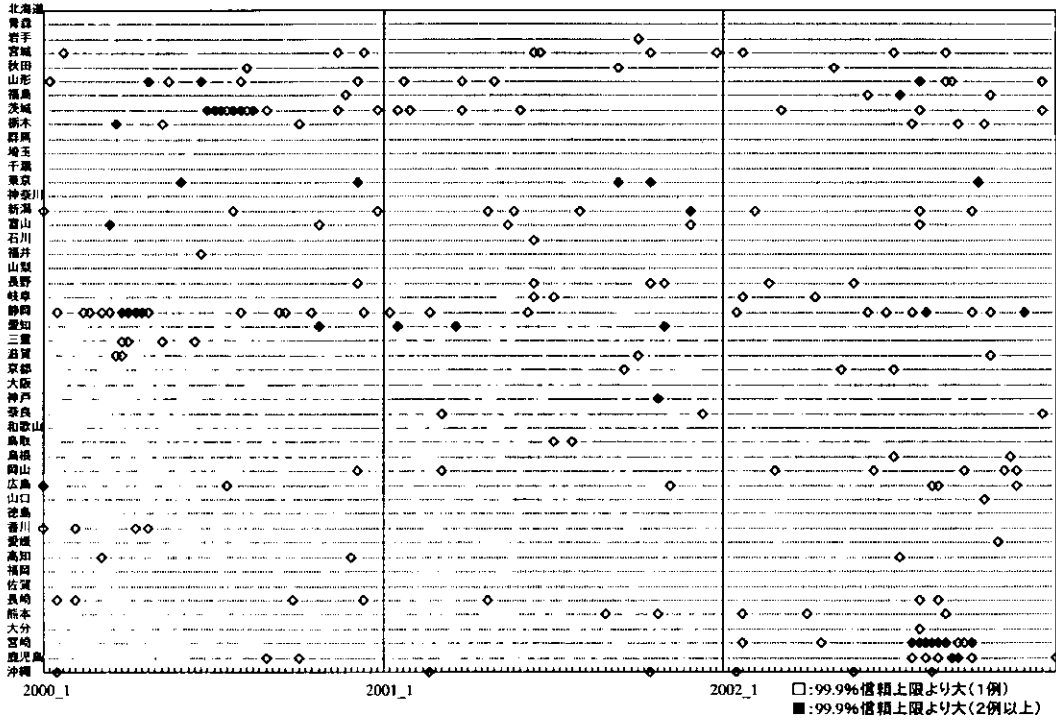
図V-3-23 都道府県と週別、過剰報告状況（マラリア）



図V-3-24 都道府県と週別、過剰報告状況（ライム病）



図V-3-25 都道府県と週別、過剰報告状況（レジオネラ症）



## V-4. 報告数の感染特性分布

### 1) 検討方法

前節と同じように、基礎資料は2000～2002年の3年間における感染症発生動向調査データとし、検討対象は3年間の合計報告数が10人以上の25疾患とした。

感染特性として、性別、年齢、診断方法、診断時の症状、「最近数年間の主な居住地」、「推定される感染地域」、「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」、「推定される感染源・感染経路」、「同疾患又は同様の症状の者の発症例」の9項目とした。なお、回答方法が自由記載の項目は今回の検討には含めなかった。疾患ごとに、2000～2002年の3年間の報告について、感染特性の各項目の分布を観察した。

### 2) 検討結果

表V-4-1に性別の報告数を示す。25疾患の中で、男の割合が70%以上は9疾患であった。すなわち、アメーバ赤痢(89.4%)、急性ウイルス性肝炎B型(70.1%)とE型(95.1%)、ジアルジア症(76.3%)、髄膜炎菌性髄膜炎(83.9%)、早期顕症梅毒(78.4%)、晩期顕症梅毒(84.9%)、マラリア(73.6%)、レジオネラ症(84.1%)であった。男の割合が30%未満の疾患はなかった。

表V-4-2に年齢別の報告数を示す。0～19歳の割合が50%以上はクリプトスポリジウム症(78.9%)、髄膜炎菌性髄膜炎(51.6%)と先天梅毒(69.6%)の3疾患であった。20～39歳の割合が50%以上は急性ウイルス性肝炎B型(57.7%)、デング熱(70.8%)、早期顕症梅毒(64.2%)とマラリア(71.3%)の4疾患であった。40～69歳の割合が50%以上は晩期顕症梅毒(54.7%)の1疾患であった。60歳以上の割合が50%以上はエキノコックス症(63.8%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(53.5%)、ツツガムシ病(61.4%)、日本紅斑熱(71.9%)、日本脳炎(65.0%)、破傷風(69.1%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(69.2%)とレジオネラ症(60.9%)の8疾患であった。

表V-4-3に診断方法別の報告数を示す。病原検査ありの割合が70%以上はアメーバ赤痢(74.1%)、クリプトスポリジウム症(99.2%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(96.8%)、ジアルジア症(98.0%)、髄膜炎菌性髄膜炎(100%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(97.5%)の6疾患であった。血清学的検査ありの割合が70%以上はエキノコックス症(74.5%)、オウム病(97.2%)、急性ウイルス性肝炎のA型(98.8%)、B型(97.7%)、C型(86.5%)とE型(85.0%)、Q熱(81.4%)、ツツガムシ病(82.6%)、デング熱(88.3%)、日本紅斑熱(92.1%)、日本脳炎(95.0%)、早期顕症梅毒(98.1%)、晩期顕症梅毒(99.3%)、無症状梅毒(98.6%)、先天梅毒(95.7%)の15疾患であった。臨床決定ありの割合が70%以上は破傷風(98.9%)の1疾患であった。「その他」ありの割合が30%以上の疾患はなかった。

表V-4-4に診断時の症状別の報告数を示す。診断時の症状ありの割合が80%未満はエキノコックス症(31.9%)、急性ウイルス性肝炎C型(64.5%)、ジアルジア症(48.9%)、無症状梅毒(4.2%)、先天梅毒(39.1%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(76.7%)の6疾患であった。

表V-4-5に「最近数年間の主な居住地」別の報告数を示す。「最近数年間の主な居住地」について、「日本国内」の割合が90%以上は21疾患であった。「その他」の割合が5%以上は、ジアルジア症(15.7%)、デング熱(15.0%)とマラリア(31.0%)の3疾患であった。「不明」の割合が5%以上は無症状梅毒(9.7%)の1疾患であった。

表V-4-6に「推定される感染地域」別の報告数を示す。「推定される感染地域」について、「日本国内」の割合が90%以上は14疾患であった。「その他」の割合が5%以上はアメーバ赤痢(16.7%)、エキノкокクス症(6.4%)、急性ウイルス性肝炎のA型(12.1%)、B型(5.6%)とE型(20.0%)、Q熱(5.3%)、クリプトスポリジウム症(6.5%)、ジアルジア症(38.6%)、デング熱(100%)、マラリア(98.6%)とライム病(9.5%)の11疾患であった。「不明」の割合が5%以上はアメーバ赤痢(19.1%)、急性ウイルス性肝炎のB型(5.8%)とC型(12.2%)、ジアルジア症(18.0%)、髄膜炎菌性髄膜炎(6.5%)、早期顕症梅毒(7.4%)、晩期顕症梅毒(20.1%)、無症状梅毒(24.6%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(12.5%)の9疾患であった。

表V-4-7に「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」別の報告数を示す。「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」ありの割合が70%以上はエキノкокクス症(70.2%)、オウム病(89.9%)、Q熱(72.6%)、ツツガムシ病(85.8%)、デング熱(97.5%)、日本紅斑熱(91.2%)、マラリア(95.1%)とライム病(97.6%)の8疾患であった。

表V-4-8～9に、「推定される感染源・感染経路」別の報告数を示す。「推定される感染源・感染経路」について、「経口感染」ありの割合が5%以上はアメーバ赤痢(25.6%)、エキノкокクス症(63.8%)、急性ウイルス性肝炎のA型(81.2%)とE型(75.0%)、クリプトスポリジウム症(63.4%)とジアルジア症(58.3%)の6疾患であった。「性行為感染」ありが5%以上はアメーバ赤痢(24.9%)、急性ウイルス性肝炎のB型(48.2%)とC型(5.3%)、早期顕症梅毒(91.8%)、晩期顕症梅毒(65.5%)と無症状梅毒(50.5%)の6疾患であった。「静注薬物乱用」ありが5%以上は急性ウイルス性肝炎C型(8.6%)の1疾患であった。「母子感染」ありが5%以上は先天梅毒(91.3%)の1疾患であった。「媒介動物等」ありが5%以上はエキノкокクス症(17.0%)、オウム病(89.0%)、Q熱(41.6%)、ツツガムシ病(80.6%)、デング熱(97.5%)、日本紅斑熱(89.5%)、日本脳炎(75.0%)、マラリア(95.1%)とライム病(97.6%)の9疾患であった。「その他」ありが5%以上は急性ウイルス性肝炎C型(23.3%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(23.0%)、髄膜炎菌性髄膜炎(19.4%)、ツツガムシ病(8.8%)、日本脳炎(5.0%)、破傷風(74.1%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(16.7%)とレジオネラ症(63.6%)の8疾患であった。「不明」ありが5%以上は21疾患であり、とくに、50%以上はアメーバ赤痢(50.1%)、急性ウイルス性肝炎C型(64.5%)、Q熱(54.0%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(77.0%)、髄膜炎菌性髄膜炎(80.6%)とバンコマイシン耐性腸球菌感染症(83.3%)の6疾患であった。

表V-4-10に「同疾患又は同様の症状の者の発症例」別の報告数を示す。「同疾患又は同様の症状の者の発症例」について、「同居者」にありの割合が5%以上はオウム病(22.0%)、急性ウイルス性肝炎のA型(13.8%)、C型(5.3%)とE型(5.0%)、Q熱(7.1%)、デング熱(8.3%)、日本紅斑熱(7.9%)、早期顕症梅毒(5.9%)、無症状梅毒(5.9%)と先天梅毒(39.1%)の10疾患であった。「同じ職場や学校等」にありの割合が5%以上はオウム病(9.2%)、急性ウイルス性肝炎のA型(5.3%)とクリプトスポリジウム症(33.3%)の3疾患であった。「その他」にありの割合が5%以上はオウム病(11.0%)、急性ウイルス性肝炎のA型(5.4%)、B型(6.9%)、C型(18.8%)とE型(5.0%)、ジアルジア症(14.9%)、ツツガムシ病(5.8%)、デング熱(8.3%)、日本紅斑熱(7.0%)、早期顕症梅毒(19.1%)、晩期顕症梅毒(15.1%)、無症状梅毒(20.1%)、先天梅毒(17.4%)、マラリア(10.1%)、ライム病(7.1%)とレジオネラ症(24.4%)の16疾患であった。

以上、疾患ごとに、感染特性別分布には大きな違いが見られた。とくに、性別、年齢、「推定される感染地域」、「推定される感染源・感染経路」などの分布では疾患により大きな特徴が見られた。

表V-4-1 性別、報告数

疾病名	性別				計 人
	男		女		
	人	%	人	%	
アメーバ赤痢	1,133	89.4	134	10.6	1,267
エキノкокクス症	18	38.3	29	61.7	47
オウム病	49	45.0	60	55.0	109
急性ウイルス性肝炎A型	814	59.5	555	40.5	1,369
急性ウイルス性肝炎B型	760	70.1	324	29.9	1,084
急性ウイルス性肝炎C型	133	54.3	112	45.7	245
急性ウイルス性肝炎E型	19	95.0	1	5.0	20
Q熱	41	36.3	72	63.7	113
クリプトスポリジウム症	79	64.2	44	35.8	123
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	105	56.1	82	43.9	187
ジアルジア症	267	76.3	83	23.7	350
髄膜炎菌性髄膜炎	26	83.9	5	16.1	31
ツツガムシ病	853	52.2	780	47.8	1,633
デング熱	75	62.5	45	37.5	120
日本紅斑熱	55	48.2	59	51.8	114
日本脳炎	8	40.0	12	60.0	20
早期頸症梅毒	582	78.4	160	21.6	742
晩期頸症梅毒	118	84.9	21	15.1	139
無症状梅毒	598	58.9	418	41.1	1,016
先天梅毒	10	43.5	13	56.5	23
破傷風	164	59.0	114	41.0	278
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	67	55.8	53	44.2	120
マラリア	254	73.6	91	26.4	345
ライム病	28	66.7	14	33.3	42
レジオネラ症	344	84.1	65	15.9	409



表V-4-2 年齢別、報告数

疾病名	年齢								計 人
	0～19歳		20～39歳		40～59歳		60歳以上		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
アメーバ赤痢	13	1.0	474	37.4	572	45.1	208	16.4	1,267
エキノкокクス症	1	2.1	7	14.9	9	19.1	30	63.8	47
オウム病	4	3.7	28	25.7	39	35.8	38	34.9	109
急性ウイルス性肝炎A型	129	9.4	546	39.9	562	41.1	132	9.6	1,369
急性ウイルス性肝炎B型	88	8.1	625	57.7	271	25.0	100	9.2	1,084
急性ウイルス性肝炎C型	15	6.1	64	26.1	88	35.9	78	31.8	245
急性ウイルス性肝炎E型	1	5.0	3	15.0	8	40.0	8	40.0	20
Q熱	30	26.5	43	38.1	21	18.6	19	16.8	113
クリプトスポリジウム症	97	78.9	23	18.7	3	2.4	0	0.0	123
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	3.7	28	15.0	52	27.8	100	53.5	187
ジアルジア症	6	1.7	158	45.1	131	37.4	55	15.7	350
髄膜炎菌性髄膜炎	16	51.6	7	22.6	5	16.1	3	9.7	31
ツツガムシ病	61	3.7	94	5.8	476	29.1	1,002	61.4	1,633
デング熱	9	7.5	85	70.8	25	20.8	1	0.8	120
日本紅斑熱	5	4.4	4	3.5	23	20.2	82	71.9	114
日本脳炎	1	5.0	1	5.0	5	25.0	13	65.0	20
早期顕症梅毒	47	6.3	476	64.2	179	24.1	40	5.4	742
晩期顕症梅毒	0	0.0	26	18.7	76	54.7	37	26.6	139
無症状梅毒	16	1.6	311	30.6	271	26.7	418	41.1	1,016
先天梅毒	16	69.6	1	4.3	1	4.3	5	21.7	23
破傷風	2	0.7	17	6.1	67	24.1	192	69.1	278
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	8	6.7	9	7.5	20	16.7	83	69.2	120
マラリア	20	5.8	246	71.3	61	17.7	18	5.2	345
ライム病	5	11.9	9	21.4	13	31.0	15	35.7	42
レジオネラ症	12	2.9	14	3.4	134	32.8	249	60.9	409

表V-4-3 診断方法別、報告数

疾病名	診断方法								全体 人
	病原検査		血清学的検査		臨床決定		その他		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
アメーバ赤痢	939	74.1	355	28.0	166	13.1	200	15.8	1,267
エキノкокクス症	14	29.8	35	74.5	13	27.7	14	29.8	47
オウム病	2	1.8	106	97.2	29	26.6	10	9.2	109
急性ウイルス性肝炎A型	41	3.0	1353	98.8	117	8.5	17	1.2	1,369
急性ウイルス性肝炎B型	96	8.9	1059	97.7	115	10.6	46	4.2	1,084
急性ウイルス性肝炎C型	54	22.0	212	86.5	30	12.2	33	13.5	245
急性ウイルス性肝炎E型	8	40.0	17	85.0	2	10.0	0	0.0	20
Q熱	52	46.0	92	81.4	37	32.7	3	2.7	113
クリプトスポリジウム症	122	99.2	0	0.0	2	1.6	2	1.6	123
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	181	96.8	18	9.6	65	34.8	9	4.8	187
ジアルジア症	343	98.0	2	0.6	11	3.1	13	3.7	350
髄膜炎菌性髄膜炎	31	100.0	1	3.2	5	16.1	2	6.5	31
ツツガムシ病	78	4.8	1349	82.6	766	46.9	39	2.4	1,633
デング熱	25	20.8	106	88.3	27	22.5	5	4.2	120
日本紅斑熱	2	1.8	105	92.1	41	36.0	3	2.6	114
日本脳炎	3	15.0	19	95.0	11	55.0	4	20.0	20
早期顕症梅毒	60	8.1	728	98.1	222	29.9	23	3.1	742
晩期顕症梅毒	17	12.2	138	99.3	35	25.2	22	15.8	139
無症状梅毒	48	4.7	1002	98.6	16	1.6	23	2.3	1,016
先天梅毒	1	4.3	22	95.7	3	13.0	2	8.7	23
破傷風	13	4.7	4	1.4	275	98.9	7	2.5	278
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	117	97.5	6	5.0	1	0.8	8	6.7	120
マラリア	325	94.2	25	7.2	35	10.1	22	6.4	345
ライム病	7	16.7	28	66.7	24	57.1	2	4.8	42
レジオネラ症	266	65.0	131	32.0	54	13.2	59	14.4	409

表V-4-4 診断時の症状、報告数

疾病名	診断時の症状				計 人
	あり		なし		
	人	%	人	%	
アメーバ赤痢	1,123	88.6	144	11.4	1,267
エキノкокクス症	15	31.9	32	68.1	47
オウム病	95	87.2	14	12.8	109
急性ウイルス性肝炎A型	1,313	95.9	56	4.1	1,369
急性ウイルス性肝炎B型	977	90.1	107	9.9	1,084
急性ウイルス性肝炎C型	158	64.5	87	35.5	245
急性ウイルス性肝炎E型	19	95.0	1	5.0	20
Q熱	104	92.0	9	8.0	113
クリプトスポリジウム症	121	98.4	2	1.6	123
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	185	98.9	2	1.1	187
ジアルジア症	171	48.9	179	51.1	350
髄膜炎菌性髄膜炎	30	96.8	1	3.2	31
ツツガムシ病	1,608	98.5	25	1.5	1,633
デング熱	112	93.3	8	6.7	120
日本紅斑熱	104	91.2	10	8.8	114
日本脳炎	18	90.0	2	10.0	20
早期顕症梅毒	653	88.0	89	12.0	742
晩期顕症梅毒	132	95.0	7	5.0	139
無症状梅毒	43	4.2	973	95.8	1,016
先天梅毒	9	39.1	14	60.9	23
破傷風	278	100.0	0	0.0	278
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	92	76.7	28	23.3	120
マラリア	339	98.3	6	1.7	345
ライム病	39	92.9	3	7.1	42
レジオネラ症	376	91.9	33	8.1	409

表V-4-5 最近数年間の主な居住地別、報告数

疾病名	最近数年間の主な居住地						全体 人
	日本国内		その他		不明		
	人	%	人	%	人	%	
アメーバ赤痢	1,182	93.3	58	4.6	27	2.1	1,267
エキノкокクス症	46	97.9	1	2.1	0	0.0	47
オウム病	109	100.0	0	0.0	0	0.0	109
急性ウイルス性肝炎A型	1,323	96.6	35	2.6	11	0.8	1,369
急性ウイルス性肝炎B型	1,051	97.0	24	2.2	9	0.8	1,084
急性ウイルス性肝炎C型	242	98.8	2	0.8	1	0.4	245
急性ウイルス性肝炎E型	20	100.0	0	0.0	0	0.0	20
Q熱	112	99.1	1	0.9	0	0.0	113
クリプトスポリジウム症	122	99.2	1	0.8	0	0.0	123
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	182	97.3	0	0.0	5	2.7	187
ジアルジア症	279	79.7	55	15.7	16	4.6	350
髄膜炎菌性髄膜炎	31	100.0	0	0.0	0	0.0	31
ツツガムシ病	1,626	99.6	1	0.1	6	0.4	1,633
デング熱	101	84.2	18	15.0	1	0.8	120
日本紅斑熱	114	100.0	0	0.0	0	0.0	114
日本脳炎	20	100.0	0	0.0	0	0.0	20
早期顕症梅毒	714	96.2	3	0.4	25	3.4	742
晩期顕症梅毒	133	95.7	1	0.7	5	3.6	139
無症状梅毒	900	88.6	17	1.7	99	9.7	1,016
先天梅毒	22	95.7	0	0.0	1	4.3	23
破傷風	277	99.6	0	0.0	1	0.4	278
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	116	96.7	3	2.5	1	0.8	120
マラリア	235	68.1	107	31.0	3	0.9	345
ライム病	42	100.0	0	0.0	0	0.0	42
レジオネラ症	407	99.5	0	0.0	2	0.5	409